

JICAガーナ 事務所ニュース

目次

所長のひとこと

1 最近の動き

- ・橋本理事出張
- ・シエラレオネ ガンビア県地域開発能力向上プロジェクト(GDCD プロジェクト)
- ・産業プロジェクト形成
- ・フルスタッフ体制となった新 Liberia Field Office
- ・科学技術協力プロジェクト指導開始
- ・アッパーウエスト州地域保健施設
- ・EETA(イータ)プロジェクト始動
- ・Support for Capacity Development of LIFMH Staff

2 広報部から

・所長のひとこと

9月2日から17日までアフリカ地域およびボランティア・研修広報担当の橋本栄治理事にガーナとシエラレオネを訪問して頂きました。ガーナでは副大統領および財務経済大臣はじめ主要閣僚と会談し、ガーナの開発課題やJICA協力について意見交換を行いました。ガーナ側からは技術協力プロジェクトや研修員の受け入れなどを通じた人材育成の成果に対する感謝と期待が寄せられました。また、クマシの天水稲作プロジェクト(技協)や国道8号線プロジェクト(無償)の現場を訪問し現地の状況を視察するとともに、専門家の方々との意見交換しました。クマシ、アクラでの専門家、ボランティアとの懇談では現場の苦勞ややりがいについて皆様のお話を聞く機会もありました。この他、事務所スタッフとも激励、意見交換の場を何回か持って頂き、モチベーションの向上にもつなげることができました。

シエラレオネでは副大統領、外務大臣、財務計画開発大臣、エネルギー・水開発大臣などと会談し、復興の状況や開発課題、JICAの協力について意見交換しました。シエラレオネ側からは今までの協力に対する謝意とともに、復興は着実に進んでいるものの課題は山積みの状況であり、いかなる協力でも歓迎する旨表明がありました。また、復興を加速させるためにも人材育成が急務かつ重要な課題であり大きな期待が寄せられました。カンビア県の地方行政能力向上プロジェクトや保健行政マネジメント強化プロジェクトの視察では、現地カウンターパートの信頼を得て着実に事業が実施されているとの感触を得たようです。雨季の劣悪な道路状況や電力事情など厳しい生活環境については、平和構築支援に対する実施体制を強化するためには早急に改善すべきとのご意見を頂きました。フィールドオフィスの実施体制強化や権限の委譲と併せて、今後本部とも相談して取り組んでいきます。

理事からは両国を通じて事務所スタッフ、専門家、ボランティアとともに総じて高い士気を持って、それぞれがガーナ・シエラレオネの発展のために取り組んでいるとのコメントを頂きました。引き続きよりよい事業を進めることができるように関係者の皆様のご協力をお願いいたします。

雨季が終わりそうで終わりません。朝晩涼しいのですが日中は暑くなってきました。9月の健康管理強化月間は無事乗り越えましたが、10月も引き続き健康にご留意ください。

(JICAガーナ事務所所長 山内)

・最近の動き

橋本理事ガーナ・シエラレオネ出張記

JICA の橋本栄治理事が 9 月 1 日から 12 日まで、ガーナとシエラレオネを訪問しました。主な目的は、両国政府関係者との JICA の協力に関する意見交換。両国訪問の最終日が急きょラマダン明けの休日に決まり、スケジュールがタイトになる中、両国の副大統領や各大臣らと精力的に会談し、JICA が実施している各プロジェクトの現場を視察しました。

両国の副大統領や各大臣との会談では、行く先々で JICA の支援に対する感謝の言葉が聞かれました。特に人材育成に対する評価と期待が大きく、11 月から福島県で始まるガーナの国別研修を始め、今後の研修事業に弾みがつきました。

ガーナでは、橋本理事が長年、訪れたいと思っていたアクラ市内の「野口英世記念研究室」を視察しました。40 年以上にわたるガーナへの支援は、野口英世がガーナで黄熱病を研究中に亡くなったことに始まりますが、橋本理事は野口英世と同じ福島県出身。故郷の偉人の功績が JICA の支援につながっていることに感慨深げでした。

アクラから西に 120 キロ離れた農村・アチュワ村にも足を運びました。アチュワ村は、任期中に交通事故で亡くなった青年海外協力隊の故武辺寛則さん(当時 27 歳)が、干ばつに強いファンティ・パイナップルの生産と販路の開拓で村おこしに努めた村。集落には、武辺さんの貢献を讃える記念碑が設置された「タケベガガーデン」があり、橋本理事は、武辺さんと同期隊員だったガーナ事務所の佐藤仁次長夫妻と共に、記念碑の前でそっと手を合わせました。

シエラレオネでは、ラマダン明けの休日が直前まで決まらず、フィールドオフィスの吉川正宏企画調査員がぎりぎりまで日程の調整に追われました。結局、同国滞在の最終日が休日になり、カンビア県で予定されていたプロジェクトの視察のいくつかは、残念ながらキャンセルになりました。それでも、専門家が電気や水道のない厳しい労働環境の中で奮闘し、現地の人々から強い信頼を得ていることが、県知事らと会談する中でよくわかりました。また、カンビア県には首都・フリータウンから新聞記者とテレビ局のディレクターらが取材のために同行し、JICA の支援に対する期待の大きさと関心の高さがうかがえました。

両国に滞在中、うれしい再会もありました。アクラのホテルで朝食をとっていた時のこと、「ミスター・ハシモ〜！」と、初老の白人男性が橋本理事に声をかけてきました。「ク、クリス？」。橋本理事の口からも、とっさに懐かしい名前が出てきます。聞けば約 30 年前、橋本理事が国際トウモロコシ・小麦改良センター(本部・メキシコ)に海外長期研修員として派遣されていた時、クリスこと、クリストファー・ドウズウェルさんも同センターで勤務していたとのこと。現在は、笹川アフリカ協会に所属しており、アクラ市内で開かれていた国際 NGO アフリカ緑の革命のための同盟(Alliance for a Green Revolution in Africa: AGRA)の会議に参加するためにガーナを訪問していました。30 年ぶりの、予想さえなかった場所での再会に、橋本理事はとても感動した様子でした。

また、会談や視察の合間を縫って職員やナショナルスタッフ、専門家、ボランティアら多くの JICA 関係者とも積極的に意見交換をしました。ガーナ事務所では「みなさんの献身的な仕事ぶりが日本とガーナの関係をより一層、強固なものにしています」とあいさつ。シエラレオネ事務所では、「今後も JICA は人々が本当に望んでいることを支援していくので、ぜひ自分たちの仕事に自信をもって取り組んでほしい」などと激励の言葉を贈りました。

(広報室広報デスク 西本)



事務所スタッフを激励する橋本理事
(左から 2 人目、ガーナ事務所)



武辺さんが暮らしていた家の前で記念撮影する橋本理事(右)。ナショナルスタッフのクリストファー(右から 3 人目)が村を案内してくれた(アチュワ村で)



ガーナ、シエラレオネともに、各省庁の大臣らと精力的に意見交換をした(左から 3 人目はシエラレオネのデービッドソンエネルギー・水資源大臣)

シエラレオネ ガンビア県地域 開発能力プロジェクト(CDCD プ ロジェクト)

～ウガンダ技術交換プログラム
を終えて～



ウガンダ地方自治大臣(左)とシエラレオネ地方自治副大臣(右)



給水ポンプ用太陽光発電パネル (Pabbo
プロジェクトサイト)



プログラム最終日参加者全員で記念写真

ウガンダ グルフィールド事務所の協力を得て、9月19日(日)～9月24日(金)の4泊6日の日程で、当プロジェクトカウンターパート7名とともに技術交換プログラムの為ウガンダを訪問し、現地の活動視察、意見交換を行ってまいりました。当プロジェクトカウンターパートからの参加者は、内務・地方自治省副大臣(CDCD プロジェクトダイレクター)、同省事務次官(CDCD プロジェクト副ダイレクター)、同省事務次官秘書、ポートロコ県議会副議長、同県議会副主席行政官、カンビア県議会副議長、同県議会副主席行政官の7名。

20日(月)

午後より地方自治省へ表敬。ウガンダとシエラレオネの近年の歴史的背景が類似していることから話が盛り上がり、各国の地方分権化の過程における事例やこれからの課題等々、地方自治大臣と1時間半及ぶ熱い演説合戦を行われました。大臣への表敬後は同省事務次官との意見交換を行い、現在のシエラレオネ県議会の体制についての問題点とその改善について貴重なアドバイスをいただくことができました。

21日(火)

カンパラからグルへ8時間程度の道のりを移動し意見交換会に参加しました。出発一週間前に事前打合せを行った甲斐もあり、シエラ側発表者はタイムスケジュール通りに発表を行い、10分という限られた時間の中で有効なプレゼンテーションを行うことができました。各発表者の発表内容に対して、ウガンダ政府側参加者からも熱心な質問があり、活発な意見交換会となりました。

22日(水)

朝から昼過ぎまでは、JICA のプロジェクトサイトを視察。その後ウガンダ政府側のプロジェクトサイトを視察。JICA、ウガンダ政府側共に、県職員や県病院職員住宅の整備を行っており、地方勤務の職員の住環境整備により安定した行政サービスの提供を行うことを目指しているとのこと。中でも参加者一同が関心を示していたのは、JICA の Pabbo プロジェクトサイトの給水システム。無電化の村で太陽光パネルを利用した給電方式でポンプを動かし水を汲み上げ、県事務所、県職員住宅、周辺コミュニティへの給水を行うシステムの為、「同じく無電化で水問題を抱えるコミュニティを多く持つポートロコ/ポートロコ県の両県でも、このシステムは活用できる！」とみな鼻息を荒げていました。

23日(木)

午前中にラップアップミーティングを行い、午後はカンパラを經由しエンテベへ移動。日をまたいだ24日真夜中のフライトにてウガンダを後にしました。

ハードなスケジュールの中、参加者一同精力的に意見交換や視察を行い、ウガンダ政府、シエラレオネ政府共に経験・情報の共有ができた大変有意義な技術交換プログラムとなりました。このプログラムで各参加者が見聞きしたことは、近日中にフォーラムを開き、まずはカンビア県議会、ポートロコ県議会で情報の共有を行う予定です。本省副大臣との協議では、その後、当プロジェクトの全対象地域(シエラレオネ北部州)を対象として、一回り大規模なフォーラムを北部州都のケネマで開催するアイデアも出ており、可能な限りカウンターパートのイニシアティブをサポートしたいと考えております。CDCD プロジェクトでは今後もアフリカ諸国同士の人的交流・経験および技術交換を通じ、お互いの知見を高めるプログラムを積極的に企画・活用し、開発のアイデアをカウンターパートと共に学んでゆきたいと考えております。

(CDCD プロジェクト業務調整 吉野)

1年半の沈黙を経て、中小零細企業復興支援プログラム形成準備調査が9月7日から17日まで本部産業開発部の協力を得て実施されました。前半は首都のアクラで貿易産業省他関連省庁及び産業団体と協議し、後半はアクラから車で約4時間のクマシに場所を移して、今後の案件形成のための情報収集を行いました。

現在ガーナでは政策実施機関である国家中小企業局（NBSSI: The National Board For Small Scale Industries）が Business Advisory Center(BAC)というユニットを通じ、各ディストリクトにおいて Business Development Service(BDS)¹を提供しています。BAC 職員は BDS の一環としてクライアントである中小零細企業への訪問指導やワークショップ、セミナー等を開催し、中小零細企業のマネージメント能力の強化を図っています。

今回協議した BAC 職員は、BDS プロバイダーとしての能力も高く、非常に熱意をもってクライアントに対して指導をしていました。ガーナの中小零細企業が抱える大きな問題の1つとして、よく資金調達難が挙げられ、「お金さえあればビジネスはうまくいく。」と考える人は非常に多いのがガーナの

現状です。しかし、BAC 職員からは資金調達の問題以上に人材育成、ビジネススキルの向上が不可欠であるという声が聞かれました。BAC 職員が人的資源の強化の重要性を述べたことは意外でしたが、現場レベルでこのような認識がされていることは、非常に心強く感じました。

現在アシャンティ州では過去に実施していた開発調査「地場産業活性化計画」でのパームオイル産業における KAIZEN の導入が非常に大きな成果を出しています。KAIZEN とは、新たな投資をせず、現在あるものを生かして無駄を省き、品質と生産性を向上させる手法であり、製造業全般に適用することができます。先行する成功事例があるアシャンティ州では関係者の KAIZEN の認知度が高く、また多くの製造業が集積しているという点から、今後アシャンティ州で KAIZEN を中心とした協力を行うことにより、さらに KAIZEN が定着して行く可能性があると考えられます。プロジェクトとして実施するには今後更なる調査が必要ではありますが、現場にいる BAC 職員のやる気、中小零細企業復興に関する考え方や積極性をさらに伸ばし、BAC 職員が KAIZEN 指導能力を身につけることで、中小零細企業の品質・生産性向上への貢献が期待されます。

政策策定機関である貿易産業省への支援に加え、政策実施機関である NBSSI/BAC へ支援を実施することで、「現場の声を政策に反映し、それを活かした施策が実施される」というようなサイクルが構築されるよう、JICA ガーナ事務所では今後も協力を実施していきたいと考えています。

(JICA 企画調整員 大草)

¹ Business Development Service とは、中小零細企業の成長、生産性や競争力の向上を促すための、金融支援を除いたサービスの総称。BDS プロバイダーはビジネスマネージメントに係る指導を行い、会計指導(帳簿のつけ方等)や市場開拓、法律相談、融資情報提供などが含まれる。

リベリアフィールド事務所は、7月中旬に保健担当の中嶋企画調査員を迎え日本人3名、ナショナルスタッフ2名のフルスタッフ体制となりました。現在、三浦企画調査員が事務所運営、インフラ分野をはじめとするプログラム支援、中嶋企画調査員が母子保健プログラムの支援、前川在外専門調整員が事務所運営のサポート、研修事業を担当しています。しかし各々に担当分野はあるものの、小規模な事務所であるため必要に応じて担当分野横断的に協力し、事務所運営やプログラム支援に取り組んでいます。先日調査団がリベリアに来訪されましたが、土日を利用したフィールド調査には事務所スタッフ全員で同行させていただきました。普段の担当分野と異なる分野を視察する機会は、リベリアの状況を多角的な視点から考察することができ、さらにその機会を担当分野にも反映させる非常に有意義なものであると考えています。今後もスタッフ全員で一丸となり、リベリア復興支援に取り組んでいます。

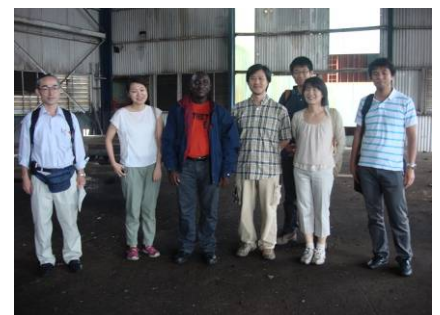
(リベリア・フィールドオフィス 前川)

中小零細企業復興支援プログラム 協力準備調査



アシャンティ州 NBSSI 地域事務所での協議の様子

フルスタッフ体制となったリベリアフィールド事務所



事務所スタッフメンバーと調査団

科学技術協カプロジェクト 始動開始



エバポレーター(濃縮装置)の技術指導



山岡教授の講義



Glow Max(HIV 分析装置)の技術指導

2010年4月1日付けでガーナ国及び JICA 間で締結された Record of Discussions (R/D) のもと始動した本プロジェクトは、5月に業務調整員の柏原専門家が野口記念医学研究所(NMIMR、以下野口研)に着任し両国でその準備を行っていました。日本からは東京医科歯科大学と長崎国際大学、ガーナからは野口研究所と生薬科学研究センター(CSRPM、以下生薬研)が共同にてプロジェクトを実施しています。特に野口研は西アフリカを代表する医学研究機関であり、日本と関係の深い機関です。

当プロジェクトでは、地球規模課題対応国際科学技術協力という、JST(国際技術振興機構)と JICA が連携した枠組みにより共同研究が行われています。研究内容は、ガーナ由来の植物から抗 HIV 及び抗トリパノソーマ(寄生虫に由来する病気、通称アフリカ睡眠病)にかかる有効な薬用植物の成分を特定・分析し、生薬に科学的根拠を与えるというものです。特にガーナの地方部では、医療機関へのアクセスの悪さや、高額な医療費のため生薬治療が広く受け入れられており、将来的には、こうした生薬治療普及に貢献するプロジェクトでもあります。

8月にプロジェクトリーダーの山岡教授(東京医科歯科大学)をはじめとするプロジェクト関係者計6名、また鈴木長期専門家が野口研に着任し、ガーナ側のカウンターパートである野口研及び生薬研のメンバーと一堂に会して、プロジェクト会議を行いました。そこでは、当プロジェクトの方針と今後の予定が再確認され、プロジェクト本格始動に対する決意が双方で確認されました。さらに、日本から導入された HIV に関する分析機器(Glow Max)のデモンストレーションも行われ、技術移転も少しずつ進められています。

9月には長崎国際大学から森永専門家がガーナ入りし、生薬を研究している生薬研で、薬用植物の採取、エバポレーター(濃縮装置)の設置と使用方法の指導、薬用植物データベースの作成などを行いました。生薬研側も本格的な外部機関との連携が初めてであり、当プロジェクトの連携に強い期待と活動意欲が感じられました。

まだまだプロジェクトは開始されたばかりであり、研究機器、試薬の調達、研究体制の構築、研究の透明性の確保など今後行う課題も山積ですが、良い結果がでるよう期待して、関係者一同力を合わせていきたいと思っております。

(業務調整員 柏原)

アッパーウェスト州地域保健 機能を活用した妊産婦・ 新生児保健サービス改善 プロジェクト(仮称) 詳細計画策定調査

ガーナの保健指標は年々改善されていますが、妊産婦死亡率の改善は目標と比較するとなかなか進んでおらず、2015年のミレニアム開発目標達成も難しいといわれています。また、アッパーウェスト州においては2008年には減少傾向にあった妊産婦死亡率が2009年には倍増しており、妊産婦死亡の改善はアッパーウェスト州における最優先課題ともなっています。このような中、日本政府に対し、JICA が2010年2月まで実施していた「アッパーウェスト州地域保健強化プロジェクト」の後継案件として、アッパーウェスト州の母子保健改善を目的とした要請がなされました。

この要請を基に、8月17日から調査団が現地入りし、情報収集を行った後、9月13日および14日には、次期案件でプロジェクトを担う州保健局、郡保健局関係者が参加する、案件形成のためのワークショップを実施しました。

前プロジェクトでも活躍した州保健局や郡保健局関係者のファシリテーションのもと活発に意見が出され、大変ガーナ側のオーナーシップの高いワークショップとなりました。

一般に、妊娠出産の約85%は正常に経過しますが、残り15%には問題や異常が起きるとされています。妊娠出産で母親が死ぬ原因には以下の「3つの遅れ」があるといわれています。(Thaddeus & Maine, 1994)

- (1)問題がおきたときに病院や診療所で診てもらおうとする決断の遅れ
- (2)決断してから病院や診療所までたどり着くまでの遅れ
- (3)たどり着いた病院や診療所で治療を受けるまでの遅れ

新プロジェクトでは医療施設における産前産後ケアの改善とともに、特に(1)(2)を改善するため、リファラルシステム²の改善、コミュニティへの母子保健に係る啓発など様々な働きかけを行っていく予定です。

「遅れ」の原因をよく見てみると、母親が知識がなく、いつ医療施設に行くべきか判断ができない、医療施設までの交通手段がない、交通手段があってもガソリン代が出せない、うちで産んだほうが勇敢だと思われる、病院で産んだ子供はコミュニティの子供だとみなされない、など様々な原因があります。特に、文化的なバリアは対応が難しく、コミュニティの文化や気持ちに寄り添いながら、ともに解決方法を考えていく必要があります。

前プロジェクトでは、地域保健システム改善の支援を行ってきました。このシステムを活用し、医療機関のサービス改善、お母さんが医療機関にアクセスするような行動変容を促進していくことができるのか。これは、大きなチャレンジです。専門家が現場に滞在し、ガーナ側とともに活動を実施、モニタリングを行い、きめ細かな対応を行うことができるという JICA の強みを生かし、良い案件にしていければと思います。

(保健班総括 加藤恵)

去る8月30日から9月17日までの間、ガーナで配電事業を実施しているElectricity Company of Ghana (ECG) からエネルギー省を通じて人材育成の技術協力の要請がなされた電力技術者養成プロジェクトの具体的な協力枠組みを決めるため、詳細計画策定調査が実施されました。

ECG はガーナ南部6州を対象に配電事業を実施している電力公社です。ECG は首都アクラから車で約30分の Tema 市に研修センターを持っており、テクニシャンに対する新人研修やシニアエンジニアに対するブラッシュアップ研修のほか、VRA (Volta River Authority: 発電公社)、GRIDCO (Grid Company: 送電公社) や他国の電力公社からの依頼による研修をこれまで実施してきました。しかしながら、現在使用している実習機材や教材は長く改訂が行われていませんでした。これは教材改訂等を行う人材の不足や新しい機材が導入されるものの、それに対応する研修を実施するための知識と人材が不足しているためです。

このような状況を改善するため、日本の技術協力によりトレーナートレーニングを実施し、テクニシャン研修およびエンジニア研修の質の改善を行い、ECG の研修能力強化を行います。

また、このプロジェクトのキモとなるのは、第3国向けの研修を実施するところにあります。ガーナの電力事情は西アフリカ諸国の中で突出しています。こ

² リファラルとは、下位レベルの医療機関で治療が難しい患者を早い段階で発見し、上位レベルの医療施設に送り、適切な治療を早い段階から行うためのシステム。



9月13日ワークショップにて参加者でグループワークをしている様子



9月17日コンサルタント、協力隊員、JICA 職員による話し合い

EETA(イータ)プロジェクト 始動



現在実施中のテクニシャン研修(地下ケーブル切断・接続研修の状況)。このような研修が毎年約40名の新人テクニシャンに対して1年間の研修プログラムで実施されている。



協議を終えて無事に署名を終了。左から、Mr. Ababio(エネルギー省次官)、山内 JICA 所長、Mr. Gakpo(ECG 社長)

の一因となるのは、ECG 研修センターのように体系化された研修プログラムを独自で実施できているところにあります。そのため、この研修センターを核として同じ西アフリカ諸国でガーナの姉妹国であるガンビア国、リベリア国、シエラレオネ国の電力公社のうち配電部門の職員をガーナに招聘し、研修を提供することによって、域内への協力を進めていきます。

最後に、本プロジェクトは、EETA(Electrical Engineers Training for African Countries)の通称で呼ばれます。日本人専門家による現地活動は 2011 年 2 月から 3 年間で予定しておりますので、今後とも EETA をどうぞよろしくお願いいたします。

(インフラ・農業班総括 田中)

Support for Capacity Development of LIFMH Staff



Agreed Objectives & Steps



Workshop to clarify roles, responsibilities & collaboration

The whole renovation of Liberian-Japanese Friendship Maternity Hospital (LJFMH) is at the final stage. Meanwhile, JICA has been dispatching three experts from Japan on maintenance of medical equipment, hospital management (5S-TQM) and mother & child health. Let me give you a brief outline of an activity of Mother & Child Expert, Ms Chiyuki YOSHIDA, who is a Japanese Red Cross Society (JRCS) staff member and is spending her final week of her first dispatch (as of Sept 21).

LJFMH's main obstetric/gynecological staffs are Nursing Director, Clinical Area Coordinators, head nurses, nurses, nurse aids and midwives. They were working hard, but their challenges were lack of collaboration between staffs in different positions and even among the staff in a team. Ms YOSHIDA held participatory workshops in which those staff did SWOT analysis and finally agreed that they should "innovate" their work through "accountability" to ensure "good quality of service" and "patient-centered care" based on "team work", "respect" and "supportiveness". These workshops helped clarify what advantages they should strengthen and what weaknesses they should overcome – they found a way out to be effectively good for mothers and children they are eager to help.

Ms YOSHIDA, who is also a nurse and midwife, has worked in countries and areas such as Afghanistan, Sudan and Aceh (Indonesia), which had been stricken by natural disasters and conflicts. She is helping her counterparts in Liberia, a country that is struggling to recover from a devastating civil conflict, to go forward looking back on basics. Her activities are also significant since they are those under partnership between JICA and JRCS.

(Liberia Field Office Nakajima)

From PR Department

– The ODA 'MIERUKA' Website Launched –

From 1st October, the JICA opens the ODA 'Mieruka' website (At the moment, Japanese website only). The website aims to explain JICA's activities in easy understandable way to the public. And so, you can see some photos and project summary of each project.

Four projects are picked up from the JICA Ghana (<http://www.jica.go.jp/oda/regions/countries/ghana.html>). Please check it out!

- Scaling up of Community Based Health Planning and Services (CHPS) Implementation in the Upper West Region
- Project for HIV and AIDS Prevention through Education
- Guinea Worm Eradication Project in Ghana
- Participatory Forest Resource Management Project in the Transitional Zone

(PR/NGO-Japan Desk Miyaura)